

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト
平成三十一年四月度 入選句（投稿総数千八百七十八句・小中学投句数八百七十五句）

特選

選者 高木 佐知子

てをつなぐきよねんとおなじさくらみち 滋賀県長浜市ほり内 かな(小三)

三年生になった作者は、誰と手をつないでいるのでしょうか。去年と同じ道を歩いているのですから、学校へ向かう通学路かもしれないですね。「きよねんとおなじ」の中七が、読み手の想像をふくらませています。さくらの中をどのような気持ちで歩いているのでしょうか。少し緊張しながら、新学年のスタートにワクワクしている喜びが伝わってくる明るい一句です。

通学路たんぼぼ見つけしやがみこむ 不破郡垂井町三島 歌純(中一)

毎日通う通学路の見慣れた景色は誰にとっても心落ち着くものです。そんな日常の中で道ばたに咲くたんぼぼを見つけたのでしょうか。「しやがみこむ」の下五で作者がたんぼぼに引きつけられていることがわかります。花びらを広げた黄色いたんぼぼを間近で見ていると、何だか元気がもらえそうですね。生活の中の何気ないことを俳句の種にしているところも素晴らしいです。

石ぼん玉わたしの顔が空へ行く 大垣市 辻井 美葵(小五)

石鹸玉が風につて空に舞い上がっていく様子が目に浮かびます。「石鹸玉」は、春の陽光にふさわしい明るい季語ですから、映っているわたしの顔も元氣いっぱいの笑顔なのでしょう。石鹸玉と空を詠んだ俳句の中で、わたしの顔が空へ行くと表したところが明るさに勢いを加えています。中七が主張点になっている一句になりました。

秀逸

ちようちよさん鼻にとまったハックシヨン 愛知県碧南市 横井 友香(小四)

水面に写る桜と散る桜 美濃加茂市 山田 陸斗(中二)

花びらと共に不安も散っていけ 美濃加茂市 今次 七海(中二)

父さんと散歩のと中春の月 大垣市 光井 智輝(小六)

おばあちゃんらいねんもまたおはなみしよ 瑞穂市 西原 悠登(小二)

つくしたちせいたかのつぼきそいあう 大垣市 名和 旺亮(八才)

しやぼん玉なな色きれいわれちゃった 大垣市 まつおか たく(小三)

春風がぼくのストレスもち去った 大垣市 松原 大悟(小四)

春になりアリさんたべものかついでる 大垣市 高木 柊哉(小五)

れきしあるおおがきじょうに春が来た 大垣市 なる毛 ことみ(小四)

入選

新学期少し不安なクラス替え	美濃加茂市	井澤	快人(中二)
先輩と呼ばれたときから桜咲く	美濃加茂市	岸	大翔(中二)
桜舞い私の胸もおどりだす	美濃加茂市	佐光	ゆらり(中二)
毎日が春風共に登下校	大垣市	伊藤	彰啓(小六)
春が来るくしゃみで分かる私だけ	大垣市	加納	里菜(小六)
くしゃみする春が来たかと空を見る	大垣市	山中	愛莉(小六)
春色に染まる親子の話すこえ	岐阜市	谷	紀輝(中一)
さくら見てカメラでのこすえがおかな	岐阜市	森	椀蓮(九才)
はるのそらばちふりあげてひびくおと	瑞穂市	堀	結翔(十四才)
しんがつきみんなのなまえおぼえよう	大垣市	ながの	ゆいか(小三)

入選

ばあちゃんとはじめていったつくしとり	大垣市	たかつ	りの(小三)
りにんしきさよならせんせまたいつか	大垣市	さとう	りゅうせい(小三)
つくしがねによきによきによきとでてるよ	大垣市	田川	彩葉(小三)
ちようちよがねおはなにとまりみつすうよ	大垣市	西	しゅあ(小三)
ひなまつりぼんぼりひかりわらってる	大垣市	田中	みさ(小三)
春の月うすい色から黄金だ	大垣市	若原	有彩(小五)
春の空こんぺいとうのような星	大垣市	北野	莉々子(小五)
夜ざくらが月といっしょに光だす	大垣市	仙石	華那(小五)
あたまだしつくしがみてる五年生	大垣市	伊藤	那乙(小五)
青空とさくららふぶきの午後の風	大垣市	神原	心音(小五)

選者吟

自転車のベルの音ゆるく春の泥

佐知子